

2010年5月24日

磁気誘導型カプセル内視鏡システム

オリンパス MS とシーメンス HC が共同開発

オリンパスメディカルシステムズ(株)(東京都新宿区西新宿 2-3-1・新宿モノリス)はこのほど、シーメンスヘルスケア(本社・ドイツ)と、胃の観察を目的とする磁気誘導型カプセル内視鏡システムに関する共同技術開発を進めていることを明らかにした。

現在実用化されているカプセル内視鏡は、消化管の蠕動運動により推進していくため、意図する場所の観察が難しく、検査対象の臓器は「小腸」など細かい消化管に限られている。今回の技術開発は、小腸などより症例数も多く、小腸用のカプセルではくまなく検査ができない広い内腔を持つ「胃」において、医師の操作による任意の観察が行えることを目指す。検査の方法は、医師が磁気誘導装置システムに横たわった患者の胃の中にあるカプセル内視鏡を、ジョイスティックで検査したい場所に誘導し、カプセル内視鏡が撮影した高画質画像をモニターに表示する形で行うことを想定している。

同技術開発は、内視鏡の世界的なリーディングカンパニーであるオリンパスと、MRI など磁気診断装置の世界的な大手メーカーであるシーメンスが、両社の最新技術を融合しながら行う。カプセル内視鏡本体ならびに画像・誘導情報システムはオリンパスが、磁気誘導装置システムはシーメンスが中心となって開発を進めている。今後は両社共同で開発した試作機において、医学的な有効性・効果を確認していく。

[病院新聞]